

株式会社 日本ベル投資研究所 (ベルトーケン)

2013年7月1日

代表取締役 鈴木行生

第3期 事業報告書

1. 決算期 2013年6月期 (2012年7月～2013年6月)

2. 決算内容

- ・活動領域は広がっており、そのクオリティを上げることに重心を置いている。
- ・前期をやや下回ったものの、一定の安定した収益と利益を上げることができた。
- ・社会貢献活動を主軸にしているため、役員報酬は取らない方針である。よって、役員報酬、配当は無い。
- ・納税、寄付のほかは、内部留保し、今後の活動資金として活用する。

3. 事業内容

- ・ I R (インディペンデントリサーチ) アナリストレポートを、原則四半期ごとに、17社について発行した。
- ・ 投資環境レポートを四半期ごとに発行し、企業を見る目をいかに養うかについて、具体的に検討した。
- ・ 英語での要請に答えて、投資環境レポートや企業レポートの英文化を一部実行した。
- ・ 事業会社の企業経営、I R活動についてアドバイスした。
- ・ I R (インベスターリレーション) 会社から依頼された I R レポートを適宜執筆した。
- ・ 事業会社の要請により、株主通信でトップマネジメントと対談した。投資家の視点で知りたい項目について質問し、理解を深めるようにした。
- ・ 投資情報ポータルサイトに投資家の啓蒙に向けたコラムを継続的に執筆した。
- ・ 外部依頼の個人投資家向け講演会で適宜講演した。
- ・ 事業会社の依頼で社外セミナー、社内セミナーや社内研修の講師を担当した。
- ・ 資産運用会社の内部監査 (I A) について継続的にアドバイスした。

4. 対外活動

- ・ 企業会計審議会 (金融庁) の臨時委員に就任し、I F R S (国際財務報告基準) の今後の対応に関する議論に引き続き参画した。
- ・ 東日本大震災からの復興支援として、震災復興支援 日本復活と投資を語る義捐金セミナー 「未来を創る子供たちの為にいま出来ることを」に引き続き参画した。

5. 事業成果

- ・ 当社のパートナー鈴木淳美との連携により、アナリストレポートを継続的に発行し、当社ブランドの認知度を一層高めることができた。
- ・ レポートの配信について、有力サイトや関係先へネットワークを広げることができた。

6. 次期の課題 と対応

- ・ 引き続きアナリストレポートの発行と配信に力を入れる。
- ・ レポートの内容については、当該企業のビジネスモデルの解明に力を入れ、将来予測と品質の向上に一層努める。
- ・ 企業の統合報告がより充実する視点で、投資に役立つアナリストレポートを書いていく。
- ・ 日本における個人投資家層の大幅な拡大に向けて、外部の組織と連携して、アナリストレポートの発行と啓蒙的な活動に一段と力を入れる。